

藤川氏

次に、今回の町並みゼミの中心になってまとめていただいている、「ディスカバーまかべ」会長の吾妻氏からお話を伺います。震災後に「まちづくりに対してどんな影響があったのか」、「どういうふうにごそこから復興してきたのか」をお話いただけます。

吾妻氏

「ディスカバーまかべ」の結成

「ディスカバーまかべ」の会が結成されたのは、平成2年(1990)に河東先生(P7参照)が中心となって、真壁の伝統的な建造物の調査を行い、平成4年(1992)に『真壁の町並みと景観』(P11参照)という企画展を行ったことがきっかけですが、会を結成する前から「この町を何とかしよう」と動いていた町づくりの仲間がたくさんいました。そんな中「この町並みを題材にして、まちづくりをやったらどうか?」と声があがり、今から26年前の平成5年(1993)に「ディスカバーまかべ」として活動を始めました(P12参照)。

町並み保存活動

様々な活動を行ってきましたが、大きな活動の一つとしては、平成11年(1999)に「登録文化財制度の活用」を当時の真壁町町長に提言し、導入したことです。そうして、文化財の登録件数が日本一になり、その後、104棟に達しました。新聞やテレビなどのメディアでも取り上げられ、町に人が訪れるようになりました。平成14年(2002)には「真壁のひなまつり」が始まり、年々、来場者が増えて全国的にも有名になりました。それには「真壁の町割り」と歴史的な建造物の背景があり、さらに「住民のおもてなしの心」があったからこそ、成功したのだと思います。その後、平成21年(2009)に「歴史まちづくり法」に認定され、平成22年(2010)に全国で87番目の「重要伝統的建造物保存地区に選定」されました。

東日本大震災

重伝建になって一年も経たないうちに、震災に遭ってしまいました。町は壊滅的な状況で、これまで一生懸命築き上げてきたものが、一瞬にして壊れたように感じて「この町は終わった」と思いました。その後、国や県の絶大的な財政支援により、町はかつての姿を取り戻しました。

町並み保存のこれから

重伝建で、これほど短期間にほとんどの建物が修理された事例というのは、全国でも真壁が唯一だと思います。通常は、重伝建になると、年に数棟ずつ修理をしていき、10年、20年単位の時間をかけて綺麗な姿に復原していきます。しかし、真壁は重伝建になってすぐに震災に遭った為、短期間ではほぼ全ての建物を復原しました。現在、真壁はそれに甘んじてしまい、本来の伝建制度の目的、制度を活かした「まちづくり」というのは、まだ成されてない、これからだという感じがします。今、真壁はスタートラインに立っており「この制度を生かして、これから、どういうふうにごまちづくりをして行こうか」という時期に来ていると思います。

藤川氏

「ディスカバーまかべ」が結成した頃に「登録文化財制度」が出来て、その後「歴史まちづくり法」が出来ました。20世紀の終わりに出来た、「新しい制度と新しい考え方」で町並み保存を展開して来られたのではないかと思います。次は建築士の立場から実際の修理の実務などに深く関わってこられて、ヘリテージマネージャーとしても活動されている武村氏に、この10年間の活動や経験を話していただけます。

武村氏

応急危険度判定

震災当時は建築士会の副会長兼、桜川支部の支部長をしていました。建物の「応急危険度」を調査するために、本部を役所に設置しました。県内の「応急危険度判定士」に5日間、毎日約20名に来ていただき、2千数百棟の調査をし、判断に応じて赤紙や黄色い紙、緑の紙を建物に貼りました。

補助金制度と修理工事

補助金制度が決定しないと修理工事に入ることが出来ませんでした。9月にやっと申請書の様式等が決定し、修理が開始できました。重伝建は97.5%の補助金(国+県)が出たので、建物を取り壊すより費用がかかりませんでした。補助金は年度決済なので、一度に工事が出来ず、修理に何年もかかるというデメリットもありましたが、10年を向かえて、9割以上の建物の修理を終えることが出来ました。

ヘリテージマネージャーとして

地震直後からヘリテージマネージャーの育成事業が茨城県で始まり、約3年間行われました。歴史的建造物の修理・修景をしていく中で、知識、技術を習得する必要性を感じて始めた事業です。茨城県内の文化財などの修理・修景にあたる建築士を育成しています。今後も、建築士である以上勉強しながら、古い建物を修理・保存していかなければならないと、この災害を期に改めて思いました。

藤川氏

震災の前から、制度を導入していたり、建築士会の方で、修景の作業を進めてこられたこと等があったから、震災後の復旧を適切に行うことができたのだと思います。



藤川氏

続いては、後半になります。「地域の人口の減少」、「少子高齢化」、「空き家の増加」というような現状の問題をそれぞれの立場からどのように感じているかを、お話いただけます。

川島氏

普段、商店街に外から人が来ることがない状況で、現実はとても厳しいです。人口減少はもちろんですが、空き家も増えています。コロナが流行ってからは、住民も町を歩かなくなり、商店街を持続していくのが大変になってきています。最近になって店を断念するところもありました。私は商店会の会長をしていますが、会員数も減ってきており、基本的な商業活動も出来ていないので、残念ですが、ここは商業地域とは呼べなくなってきてしまいました。

武村氏

茨城県全体でも空き家が増えており、これから考えていかなければならないのは、空き家の活用です。ヘリテージマネージャー等の団体や、各地域でも、伝建地区だけでなく多角的視点で歴史的建造物を保存しようという動きが出てきています。真壁でも、空き家を活用する運動を進めていきたいと思います。真壁は、震災で特定物件の建築物を修理しましたが、使われていない建物がたくさんあります。補助金をかなりいれて修理していますので、そういう方にも、協力していただきたいと思います。

藤川氏

外から新しい人に入って来ていただいて使って貰ったり、あるいは、住んで貰うことが増えていくといいですし、もしかすると、コロナ禍ということが、そういう一つのきっかけになるのではないかと思います。

寺崎氏

震災後は色々な制度で、行政的に支援をすることが出来ましたが、ここから先のことは、「町の人達と一緒に考えて、一緒に取り組んでいく」必要があると思います。

吾妻氏

伝建制度の理解

歴史的建造物のハード面では90%が直ったということなので、ほぼ完了しつつあります。しかし、住民の方々の伝建制度についての理解がまだ不十分だと思います。何故なら、平成27年(2015)に伝建地区の住民にアンケートをとったところ「建て替えや修復の際の手続きを知らない人が7割」、「手続きの方法の説明会をして欲しい人が5割」もいて、実際に、伝建地区に新築の建物を建築するときに、様々な制限があり問題が起こっています。なので、高齢者だけでなく、その次の世代に伝建制度を理解してもらう必要があります。伝建制度は保存だけが目的ではないので、この制度を活かしてどのように住民が町を作っていくのか、それが一番大きな制度の目的だと思います。まだ、真壁ではそういう制度を生かした「まちづくり」が成されていないと思います。

実は真壁は凄い町

先日、奈良県橿原市今井町の町並み保存会長をしている若林氏が真壁を訪れました。今井町は、江戸初期からの建造物が立ち並び、重伝建制度が出来たのも、今井町の為に作ったと言われていた程の見応えのある町並みです。その保存会長が真壁の町並みを見て「今井町には無い特徴が数多い、恵まれた町です。こんなに広い道があり、家の門が凄すぎる。」と話されました。その時の模様を、ディスカバーまかべで制作している「かわら版」で「真壁は外から見ると凄い町なんだ」と、市民にお知らせしました。さらに、川越や佐原の伝建地区に住んでいる方からも、真壁の町並みにお褒めの言葉をいただいています。真壁の町並みの素晴らしさや価値を、まだまだ、住民は認識していないので、もっと誇りに思っても良いと思います。

まちづくりで恩返し

真壁の復興は「全国伝統的建造物群保存地区協議会」の支援、「国と県から最大で97.5%の補助金」、この支援があったからこそ、真壁の建造物は復旧が成されました。だからこそ、支援に対してここに住んでいる私達としては、恩返しとして「活用を図るべきだ」と考えています。真壁は外から見ると非常に魅力を秘めた所です。町並みだけでなく、豊かな土地、農業、周囲の山々も非常に真壁にとって良い所です。茨城県で唯一の伝建地区であり、他の伝建地区とはまた異なった魅力があると思います。「重伝建地区」、「歴史まちづくり法」、「登録文化財制度」という「制度を生かしたまちづくりが必要」だと思っています。そのためには「住民と行政が一体となったまちづくり」を推し進める必要があると思います。

これからの保存活動

コロナ禍ということで、今回の町並みゼミはWEB配信になりましたが、こういう状況の中でも方法を考えて町並み保存活動を行っていく必要があると思います。先人たちが作った、千年以上の歴史がある真壁を、一体我々はどうのように未来に繋げて行くのか、この機会にもう一回、考える必要があるのではないかと思います。

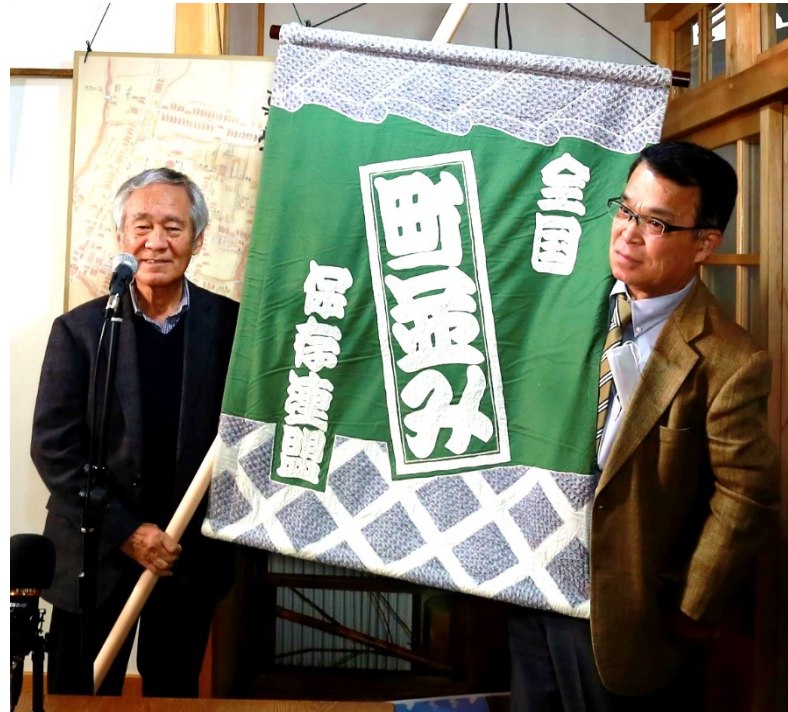
藤川氏

真壁は、伝建地区や建造物だけでなく、山が良く見えると、全体的に落ち着いた感じがあるとか、そういう魅力を今後、活用して豊かな町にしていこうと、徐々に考え方も変わってきたのではないかと思います。また、川島氏のお話で、町に活気がなくなってきているということですが、「町としてその活力を何とかして取り戻すことが、今後の課題」だと思いました。

二十軒 起夫 TACHIO NIJYUKKEN

公益社団法人奈良まちづくりセンター理事長

2021年の秋、おそらく11月頃になるかと思いますが「1300年の歴史を誇る奈良の都」をベースにした奈良町で全国町並みゼミの大会を開催したいと考えております。歴史的な建物、それから、そこでの生活、こういった町の資産を如何に生かしていくのかということテーマにして、色々議論を進めていきたいと思っています。ぜひ、2021年の秋は奈良へお越しください。



謝辞

荒牧 澄多 SUMIKAZU ARAMAKI

NPO法人全国町並み保存連盟常任理事

第43回全国町並みゼミ桜川市真壁大会の閉会にあたり、全国町並み保存連盟を代表して、謝辞を申し上げます。桜川市の実行委員会の方々、そして、真壁の住民の方々、今回本当にありがとうございました。本来ですと、河東先生のお話やパネルディスカッションで議論にあった「真壁の町並みが災害をどう復旧してきたか」を体感しながら、皆さんと議論したかったのですが、このような事態になり、一時は大会の開催さえ危ぶまれる中で、リモートという形になりました。大会を決定してくださった真壁の方々、本当にありがとうございました。こういったリモートの大会が今後の大会に一石を投じたかもしれませんが、参加したいけれど、現地へ行けない等の方々には、こういう形での参加の仕方というものが議論されるようになるかと思っています。今後、この大会を検証して、私達、町の保存連盟も次の大会の在り方を考えていきたいと思っています。しかし、この町並みゼミの良いところは「人と会って議論をし、美味しいものを食べ、現地を体感する」が一番最高のベストな状態です。ぜひ、奈良大会はそういった形で開かれることを祈念いたします。本当に今回は真壁の方々ありがとうございました。

アンケートに回答して下さった皆様 ありがとうございます

町並みゼミをご覧いただいて

- 現地のご紹介ビデオ、ご講演、パネルディスカッションなど興味深く、大変参考になりました。ありがとうございました。ディスカバーまかべの皆様方も、復興後の新たな展開に向けて、ご尽力されている様子がよくわかりました。
- 基調講演が解りやすく良かった。登録有形文化財が100棟余もあるとは驚き、感動。地域への愛着と誇りを持つ女性のボランティアガイドが多い。
- 町並み保存の意味やあり方を先生方が意見交換しているところが参考になった。建物が歴史的建造物等であっても空家では意味がなくいきいきと使われている状態を生み出す、まちづくりが必要との強い思いを受けた。真壁地区は、まちづくりに関する人間関係が確立しており素晴らしいと思った。
- 町を案内して下さった皆様と、そしてお話をお聞きしたことで、町も、町の方々も「品格」をもっていらっしやると本当に思いました。先日、NHKBSで赤坂の迎賓館建設のことが紹介されていました。その中で迎賓館の外壁が真壁石だったことを知りました。現在も真壁石は切り出されており、石工も活躍されているとのこと、何人かの石工の方が出演されていました。今に残る、文化産業だと思っています。大都市の核をも生み出された石工も、真壁町の人だったと知り、一層真壁の町が輝いて見えます。
- 今回、コロナ禍の中で初めての試みであるオンライン開催を苦勞して実施された真壁の皆様にご敬意を表します。リアルタイムでの視聴はできませんでしたが、後日、YouTubeで拝見しました。長年真壁の町並みに携わってこられた河東先生の基調講演はとてわかりやすいお話でした。特に国登録有形文化財を増やして伝建につなげて行ったということは、伝建選定を目指す私たちにとって大変参考になりました。町並み紹介も、とても親しみが持て良かったです。
- 登録文化財の数に驚きました。地震から災害復旧の現場での苦勞を肌で感じる事が出来ました。復旧を断念された建物もあつたそうで、自然の恐ろしさや悔しさを感じ、実際に直面した時の行動を考えさせられました。立派な門がたくさんあり、実物を見たと思いました。ひな祭りの雰囲気になりました。

WEB配信で行う大会について

- オンライン開催の良かった所は後で何度も繰り返して見る事が出来ることです。しかし、私の感じる全国町並みゼミへ参加することの良さは、日頃なかなか行くこと出来ない場所へ行き、現地の空気や雰囲気を肌で感じ、そして何よりも現地の人達や全国各地の人達との交流が出来るという点ではないかと思っています。今回は誰も予期できない事態でしかたなかったと思います。ぜひいつの日か、真壁を訪ねてみたいと思います。皆様のご健勝とご活躍をお祈り致します。
- 現地の素晴らしい町並みを、全国の皆様に体験していただけなかったのはコロナというやむを得ない事情があったにせよ、残念でした。しかし、シンポジウム、事前取材による町並み紹介など、最大限の工夫をされ、ネット配信を活用して、真壁の町並みの素晴らしさを伝えていただいてありがとうございました。ただ、交流会のネット開催は無理がありそうですね。また、近いうちに、真壁の町並み見学会を企画していただければ幸いです。
- やはり現地参加がベターだと思うが、コロナ禍の状況下では仕方がない。
- 多くの方が参加できる可能性があるように思います。
- Web開催は見ない。止むを得ないと思うけど、私のような高齢者の中には対応しない方もいるのでは。
- コロナ禍のもとでオンラインで今回行ったことは「まちづくりの思い」が結集した大会となったのではないかと。貴重な意見交換であったものと思われる。現場を見てその状況と感想について全国の人々と情報を共有し語り合いが出来なかったことは残念ですがコロナ禍のなかでは安全安心面で適切な開催であったと思う。
- 現地が少人数での参加がとても良かったと思います。時々、現地のみなさまのお話を伺えたことが良かったです。配信の場合、パソコン操作が必要になりますが、今後必要なことだと思っています。
- 現地見学、皆様にお会いできないのは残念ですが、移動時間がなく、仕事を休む必要がないことなどから、今回のような開催形態も有難いです。
- 現地を歩いて、見てみたいと思いました。ディスカッションは画面越しですが距離感が近く感じ、リアルに話を聞けました。



真壁祇園祭

400年の歴史を持つお祭り。
昭和61年(1986)に「五所駒瀧神社の祭事」として記録作成等の措置を講ずべき、国の無形民俗文化財に選択されています。



真壁のひなまつり

お店や家に約160件、お雛様を展示しています。
真壁の町を歩きながらひなめぐりできます。



写真提供 竹蓋年男

実行委員会



町並み案内撮影



大会当日



大会風景

全国町並みゼミ大会履歴 1978-2020

第1回	1978	愛知県名古屋市中区・足助町	町並みはみんなのもの
第2回	1979	滋賀県近江八幡市	明日へ活かそうわれらの遺産
第3回	1980	北海道小樽市・函館市	あたらしい町自慢の創造を
第4回	1981	香川県琴平町	息づけ!町並み町の顔
第5回	1982	東京都	語ろう明日の町並み町づくり
第6回	1983	大分県臼杵市	町並みに誇りと息吹と未来とを
第7回	1984	長野県飯田市大平宿	町ぐるみ語れ、町並みこそふるさと
第8回	1985	兵庫県龍野市	残そう、町並みの心と形
第9回	1986	福島県会津若松市・下郷町大内宿	町並みと商人文化の創造
第10回	1987	三重県松阪市	生活文化としての町並みを考える
第11回	1988	沖縄県竹富島	語ろう町並み、広げよう“うつくみ”の輪
第12回	1989	栃木県栃木市	生かそう蔵の町
第13回	1990	京都府京都市	町並みはなんなり、歴史都市
第14回	1991	秋田県角館町	町並みはお祭りのこころ
第15回	1992	福岡県吉井町	町並み再発見・ゆとりと調和
第16回	1993	埼玉県川越市	語りあおう町並みの未来
第17回	1994	長野県須坂市	明日にはくむ町並みの輪
第18回	1995	長野県南木曾町妻籠宿	町並み保存の原点を、みんなで喋り考えよう
第19回	1996	愛知県犬山市	みんなで考えよう保存・育成・創造の町づくり
第20回	1997	新潟県村上市	ひとなみ・まちなみ・まちづくり
第21回	1998	東京都	日本の町並み 東京の町並み
第22回	1999	大分県臼杵市	まちなみ・環境・まちづくり 今ふたたび臼杵から
第23回	2000	宮崎県日南市	文化財保護法50年 -伝えよう文化財の町並み
第24回	2001	北海道小樽市	21世紀・新しいまちづくりの手法と展望
第25回	2002	広島県福山市鞆	見ようや!ふるさとの文化 -文化で生活がくえるかのう
第26回	2003	奈良県桜原市今井町	再び町並みはみんなのもの
第27回	2004	石川県加賀市大聖寺	ゆったりと行こう あったらもん
第28回	2005	岐阜県美濃市	とりもどそまいか 町並みの賑わい
第29回	2006	福岡県八女市	未来へ継承するぞ 町並み文化
第30回	2007	三重県伊勢市	伝えよう 心とかたちのまちなみ文化み
第31回	2008	愛媛県西予市卯之町	だんだん学ぼう よもよも人づくり
第32回	2009	千葉県香取市佐原・成田市	歴史を生かしたまちづくり
第33回	2010	岩手県盛岡市	「城下町」再生のまちづくり
第34回	2011	岐阜県飛騨市	つなごう歴史のまちづくり -飛騨の匠の技と心を伝えよう-
第35回	2012	福岡県福岡市	地域遺産の再発見とまちの魅力創出 -福岡から活かそう 町並みとアジア文化-
第36回	2013	岡山県倉敷市	つながる地域文化の伝統と創造 ~備中の風土力の発信
第37回	2014	佐賀県鹿島市嬉野市	つなごう歴史遺産 みがこう町並み文化 -有明海で栄えた塩田津と浜宿
第38回	2015	兵庫県豊岡市	ふるさとよみがえりへの想い ~コウノトリ舞う豊岡にて
第39回	2016	福島県下郷町大内宿・南会津町前沢集落	町並みを次の世代へ ~保存と暮らしの共存~
第40回	2017	愛知県名古屋市中区	町並みは私が守る ~みんなのものから40年
第41回	2018	長野県長野市松代町・善光寺	町並みを守って歴史文化のまちづくり ~次世代へ・未来へ、伝える・つなぐ~
第42回	2019	埼玉県川越市	歴史都市のこれから~過去に学び、今を見つめ、未来を思い、ともに歩む~
第43回	2020	茨城県桜川市真壁町	これからの町並み保存とは? -度重なる災害からの復旧と、新しい生活様式の中で-

第43回全国町並みゼミ桜川市真壁大会

- 主催 第43回全国町並みゼミ桜川市真壁大会実行委員会
- 共催 NPO法人全国町並み保存連盟
- 後援 茨城県、桜川市、桜川市教育委員会、桜川市観光協会、ヘリマネいばらき協議会、茨城新聞社
国土交通省、農林水産省、文化庁、観光庁
公益社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟、全国伝統的建造物群保存地区協議会
一般社団法人日本イコモス国内委員会、一般社団法人日本建築学会
公益社団法人日本建築士会連合会、公益社団法人日本都市計画学会、公益社団法人土木学会
公益財団法人日本ナショナルトラスト、公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、公益財団法人文化財建造物保存技術協会
歴史的景観都市協議会

第43回全国町並みゼミ桜川市真壁大会実行委員会

- | | |
|----------|---|
| 大会名誉会長 | 大塚 秀喜(桜川市市長) |
| 特別顧問 | 河東 義之(国立小山高専名誉教授) |
| 顧問 | 稲川 善成(桜川市教育長) |
| 大会実行委員長 | 吾妻 周一(ディスカバーまかべ) |
| 大会副実行委員長 | 福川 裕一(NPO法人全国町並み保存連盟)
石塚 文彦(真壁まちなみ保存会) |
| 監査委員 | 増田 豊(真壁まちなみ保存会) |
| 大会実行委員 | 全国町並み保存連盟常任理事 荒牧 澄多
ディスカバーまかべ(代表:吾妻 周一会長)
真壁街並み案内ボランティア(代表:鈴木 孝子)
街あかりプロジェクト(代表:村上 頼子)
真壁まちなみ保存会(代表:石塚 文彦)
桜川市建築士会(代表:鈴木 賢和)
登録文化財を活かす会(代表:三輪 巴)
ヘリマネいばらき協議会(代表:武村 実)
郡司 一男(VTR、写真撮影)
萩原 陸(桜川市地域おこし協力隊)
星 いづみ(パンフレット、報告書担当) |
| 会計 | 村上 頼子(街あかりプロジェクト) |
| 事務局 | 田中 宣寛(ディスカバーまかべ) |
| 動画配信 | Vチャンネルいばらき(VSC株式会社) |